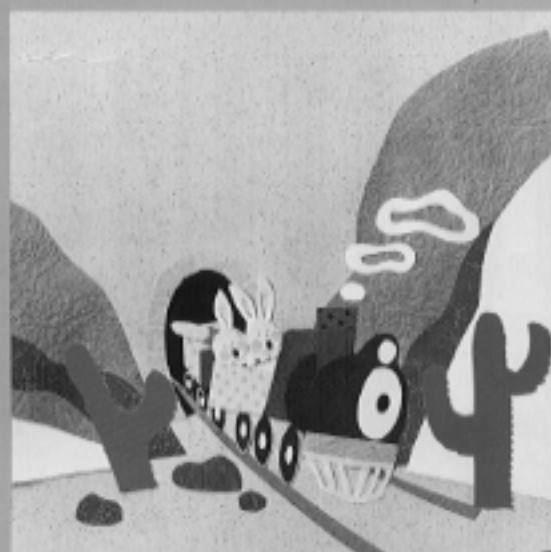
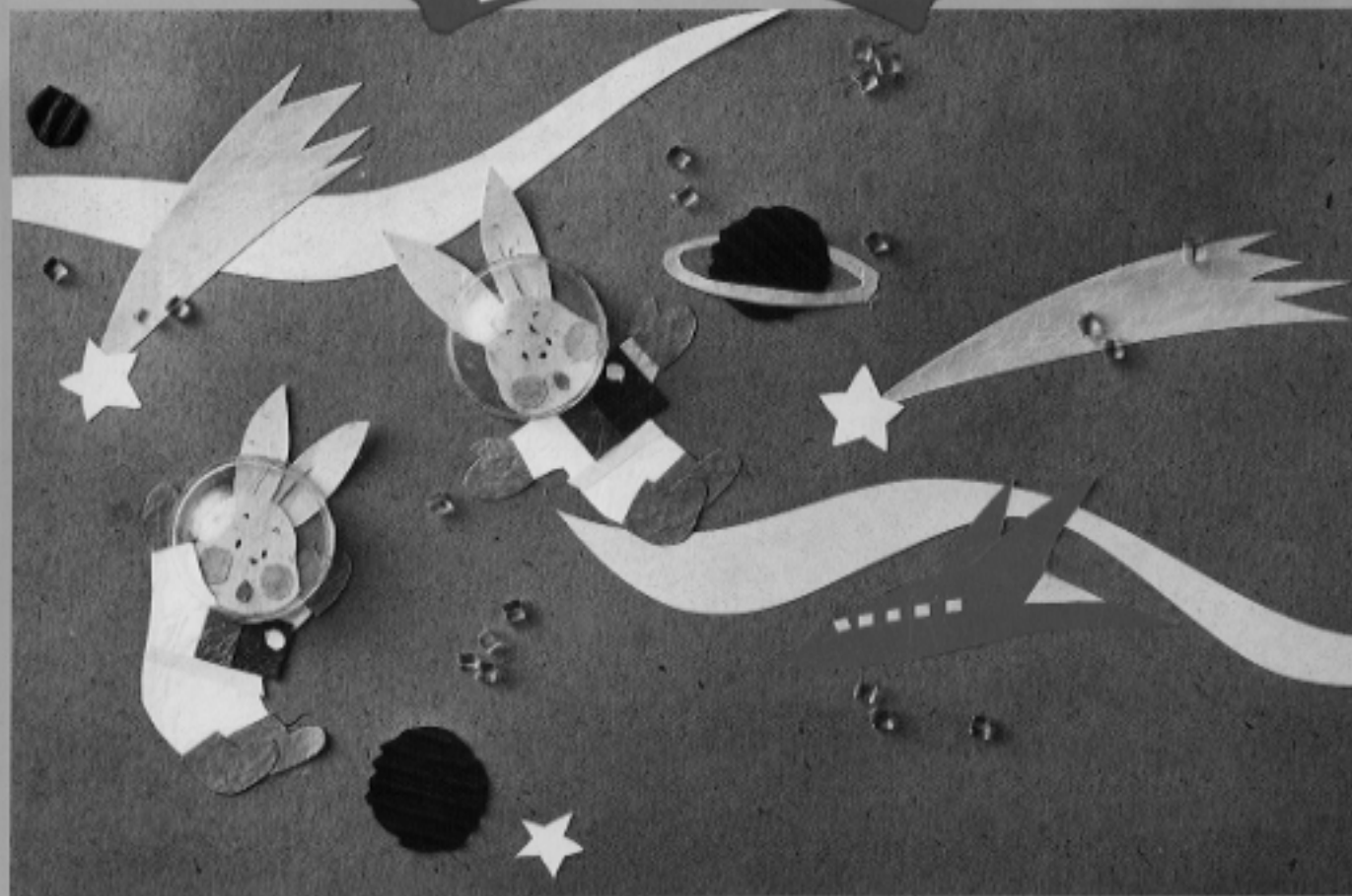


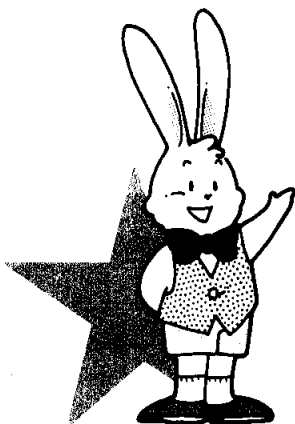
YAMAHA ELECTONE[®]
HC-1

取扱説明書



エレクトーンランド





はじめに

このたびは、ヤマハエレクトーンをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。ヤマハエレクトーンHC-1は、豊かな音楽性と幅広い表現力を持つ、どなたにも使いやすいエレクトーンです。この取り扱い説明書（プレイガイドブック）は、楽しみながら操作を覚えていただけるよう、エレクトーンの機能を遊園地にみたて、順路を追って進んで行けるように構成されています。

ご使用にあたりましては、その多彩な機能を正しくお使いいただくために、かならず本書をお読みください。また、お読みになったあとは、大切に保管し、わからないことが生じたときにご活用ください。

ご使用上の注意



必ず、AC100Vのコンセントから電源を。

電源プラグをコンセントに接続する際には、必ずAC100Vのコンセントであることをご確認の上、接続してください。



内部に水が入った場合は。

あやまって水などをかけ、エレクトーンの内部にはいつてしまった場合には、ただちに電源スイッチを切り、電源プラグをぬいたうえで、電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。



電源プラグの扱いに注意。

ぬれた手で電源プラグにふれると、感電するおそれがありますので、じゅうぶんにご注意ください。また、コードの断線やショートを防ぐため、電源コードをコンセントから抜くときは、電源プラグ自体を持ってぬいてください。



電源スイッチを切り忘れないように。

電源が入ったまま長時間放置すると、思わぬ事故の原因になることがありますので、使用後は、かならず電源スイッチを切ってください。



エレクトーンの内部には、絶対ふれないでください。

エレクトーンの改造や部品のとりはずしは、たいへん危険ですので、絶対におやめください。故障だと思われる場合は、電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。



ページ

エレクトーンランド	
順路のごあんない図	1
準備しましょう	2
アトラクション1 ●音色●	3
アトラクション2 ●リズム●	12
アトラクション3 ●メモリー機能●	22
末永く安全にお使いいただくために	27
故障かなと思ったら	28
付属端子	29
MIDIについて	30
MIDIインプリメンテーションチャート	31
仕様と音域表	32
アフターサービスと保証	33

サステイン
音に余韻を与える効果。

ベースボイス
ペダル鍵盤の音色グループ。

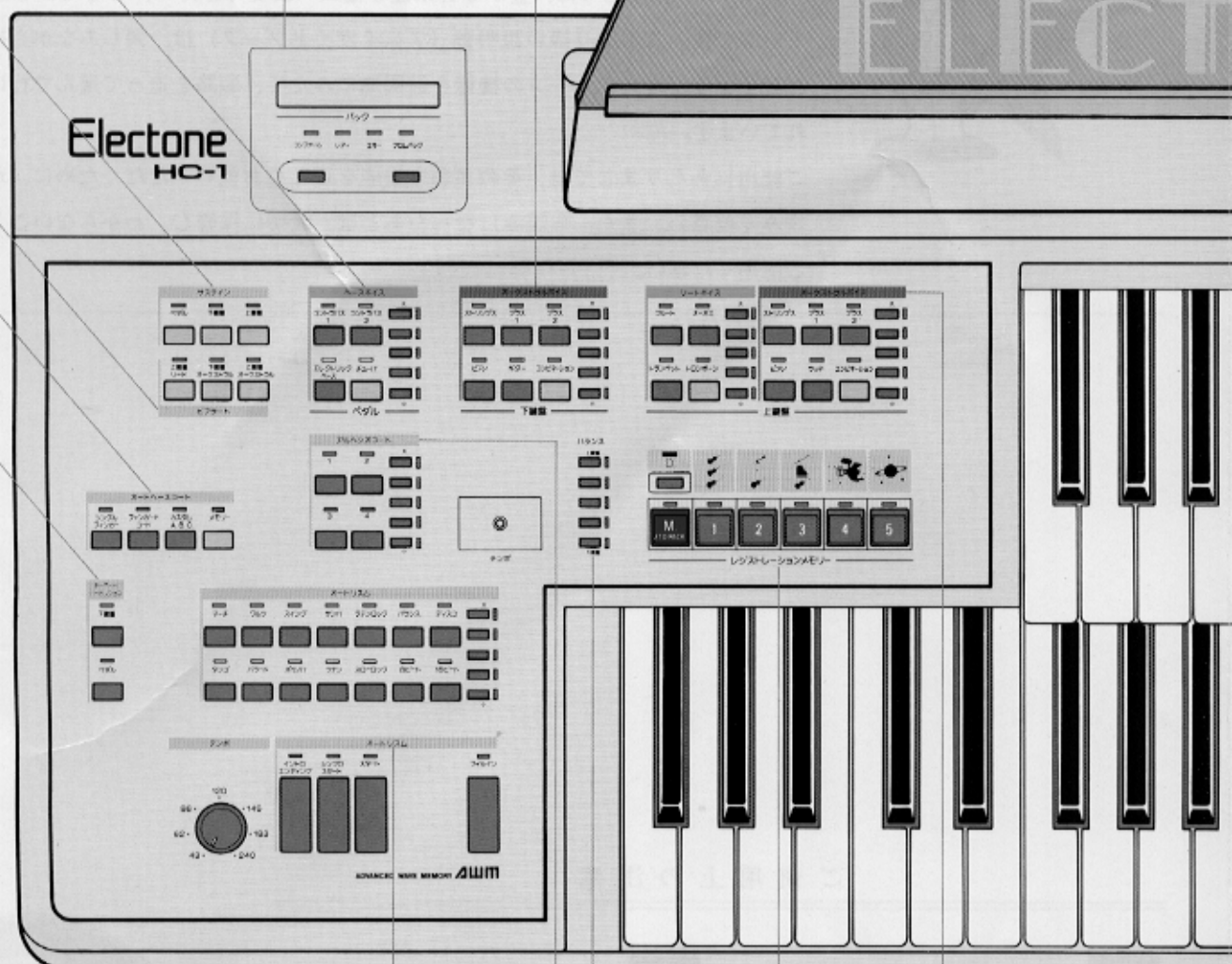
バック
エレクトーンに記憶させたデータをバックに移す。またはバックのデータをエレクトーンに移す。

オーケストラルボイス
下鍵盤の音色グループ。

ビブラート
音をふるわせる効果。

オートベースコード
自動伴奏の使い方を選ぶ。

キーボードパーカッション
いろいろな打楽器音が出る。



オートリズム
リズムに関する機能。

アルペジオコード
伴奏パターンを選ぶ。

基本レジストレーション
基本的な音色の組み合わせをセット。
レジストレーションメモリー
音色やリズムのセットを記憶。

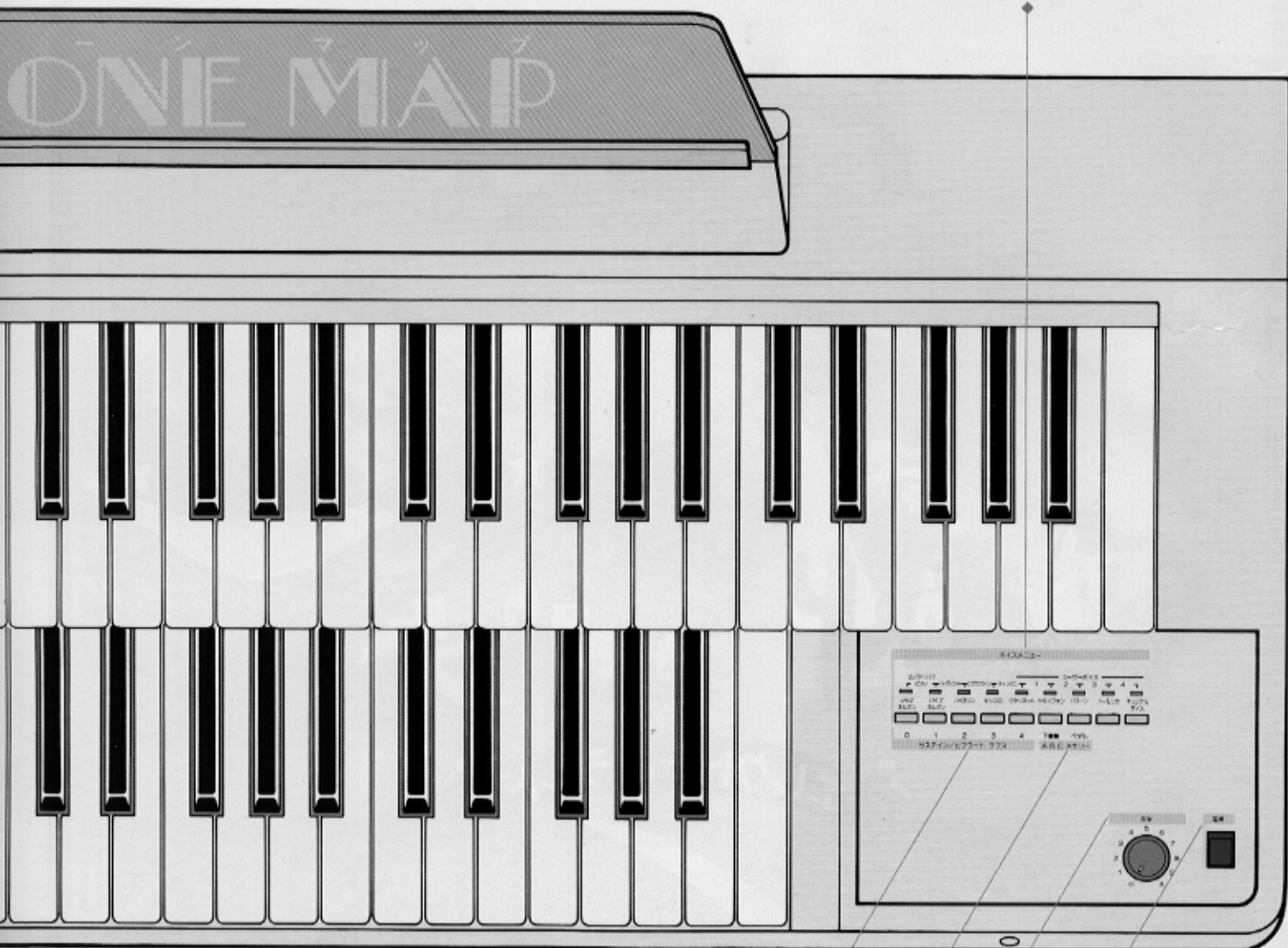
バランス
上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスを調節。

オーケストラルボイス / リードボイス
上鍵盤の音色グループ。



ンドへようこそ!

ボイスメニュー
グレーのボタンに移
して使う音色。



電源
電源スイッチ。

音量
全体の音量を調節。

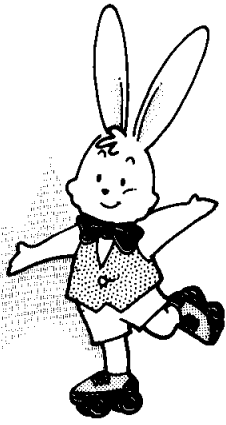
サステイン/
ビブラート・デプス
サステインの余韻の長さ
やビブラートの深さをセッ
ト。

A.B.C.メモリー
オートベースコードを記
憶。



エレクトーンランド順路のご案内

エレクトーンHC-1の機能のせつめいは、3つのアトラクションに分かれています。アトラクション1から順に進んでいきましょう。



スタート

アトラクション1 音色

基本レジストレーション
③ページ
基本レジストレーションで弾いてみましょう

パネルの音色 ⑤ページ
弾きたい音色を選んでみましょう

効果 ⑩ページ
音色を変化させてみましょう

キーボードパッカーション ⑭ページ
打楽器の音を出してみましょう

リズム ⑫ページ
オートリズムにあわせて演奏してみましょう

課題曲 ⑳ページ
レッツチャレンジ!

アトラクション3 メモリー機能

レジストレーションメモリー
⑳ページ
レジストレーションを記憶できます

オートベースコード ⑮ページ
指一本で自動伴奏

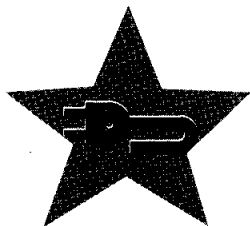
アルペジオコード ⑱ページ
伴奏パターンを選びましょう

アトラクション2 リズム

課題曲 ㉒ページ
レッツチャレンジ!

バック ㉔ページ
レジストレーションをバックにしまいこみます

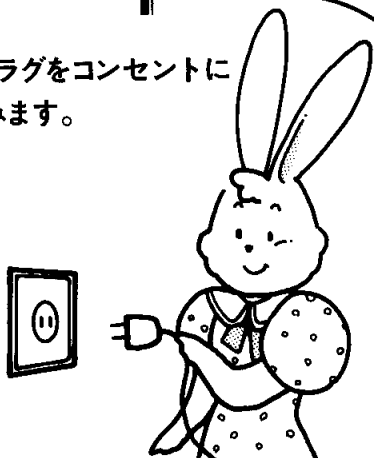
エンド



準備しよう

1

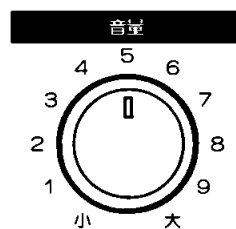
電源プラグをコンセントにさしこみます。



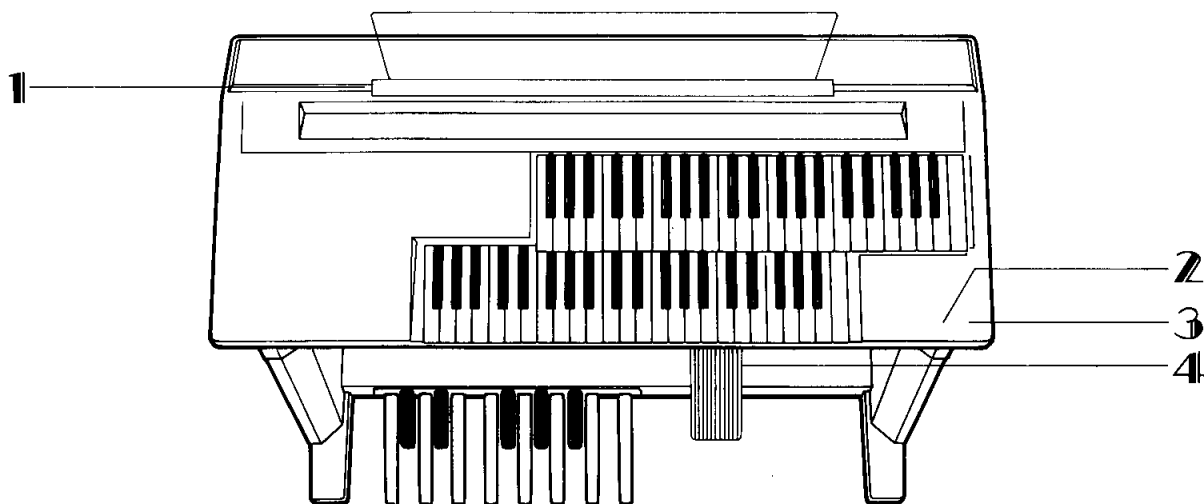
AC100Vのコンセントであることを確認してください。

2

音量をまん中ぐらいにセット。



このつまみでエレクトーン全体の音量を調節します。



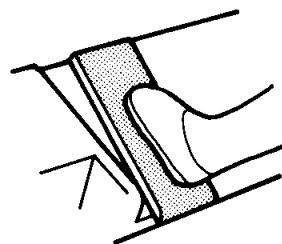
3

電源のスイッチを押します。



4

エクスプレッションペダルを右足でふみこみます。



このペダルも全体の音量をコントロールするもので、演奏しながら足のふみこみによって音の強弱がつけられます。

さあ、準備はできました。いよいよ次のページから、アトラクション1. ●音色●がはじまります!

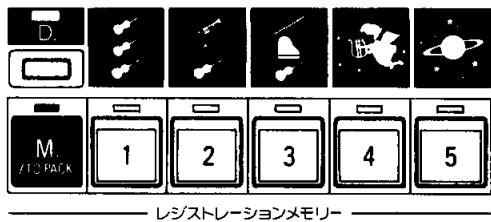


基本レジストレーションで弾いてみましょう。

「レジストレーション」とは、「登録」という意味で、エレクトーンの、各種のサウンドをつくり出すために行う、音色、効果、リズムなどのセッティングのことをいいます。この基本レジストレーションは、エレクトーンの演奏によく使われる音色のセットです。1から5までの5つのボタンの中から、ワンタッチで呼び出すことができるので、演奏を始める時にとても便利な機能です。それでは、基本レジストレーションの音色をきいてみましょう。

1

いったん電源のスイッチを切ります。次に赤いメモリーボタン①を押さえながら、電源のスイッチ②を押します。

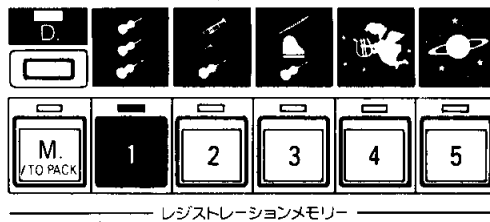


①

②

2

数字のボタンをひとつ押します。押したボタンのランプが光り、基本レジストレーションのひとつがパネルにセットされます。



電源のスイッチを入れたあと、メモリーボタンから指をすぐにはなさず、そのままパネルの各ランプが点灯するまで押しつづけてください。

さあ、鍵盤を弾いてみましょう。基本レジストレーションの音色が上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤のそれぞれからできます。

基本レジストレーションに関するボタン

メモリーボタン

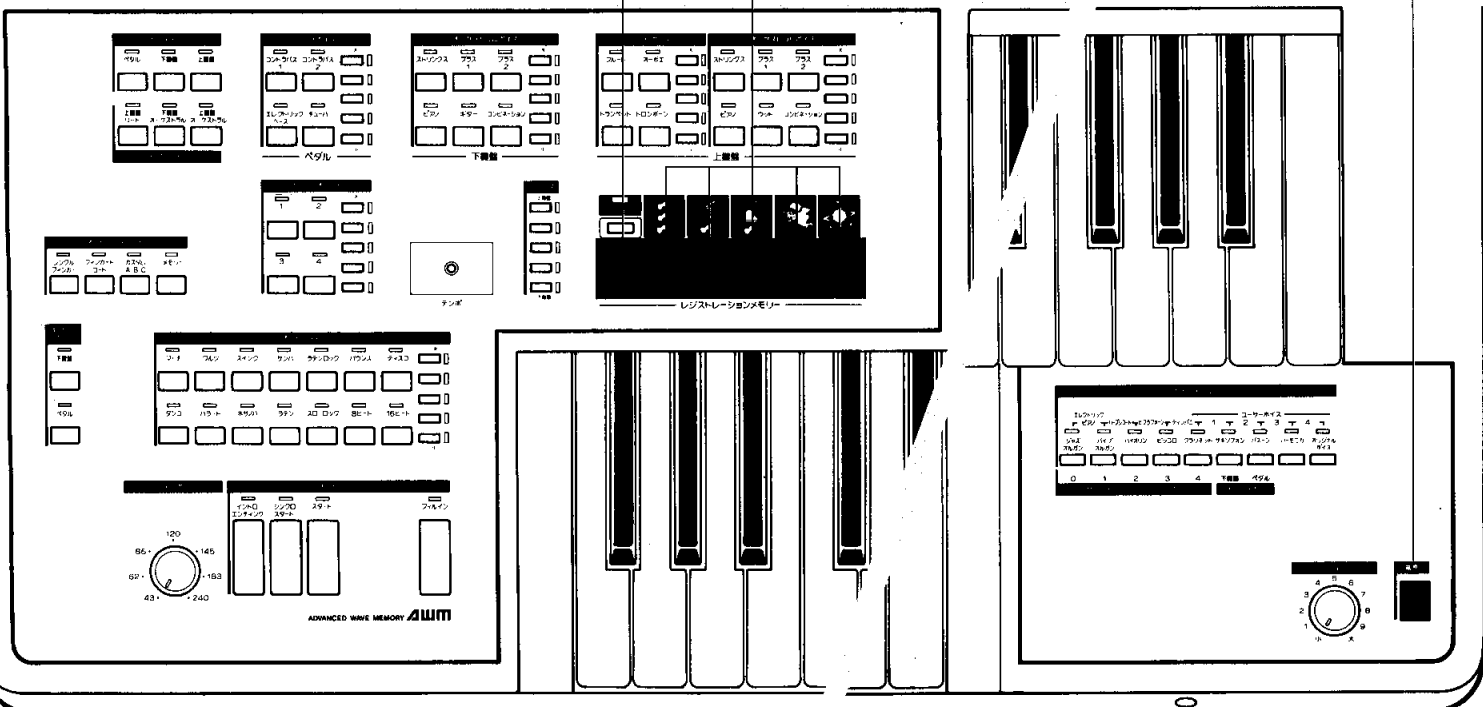
基本レジストレーションを呼び出すときに使います。

数字のボタン

この中から好きなボタンを押して、基本レジストレーションをセット。

電源

基本レジストレーションを呼び出すときは、このボタンも使います。





基本レジストレーションの音色

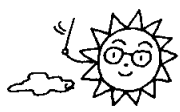
ボタン	1	2	3	4	5
演奏のタイプ	ストリングアンサンブル	ブラスアンサンブル	フルート・ピアノアンサンブル	コズミックサウンド	シンセサウンド
上鍵盤	ストリングス	ブラス	フルート	コズミック	シンセブラス
下鍵盤	ストリングス	ブラス	ピアノ	コズミック	シンセブラス
ペダル鍵盤	コントラバス	コントラバス	コントラバス	コズミック	シンセベース

弾いてみましょう

M. 1 2 3 4 5

上鍵盤で弾きましょう。

よろこびのうた

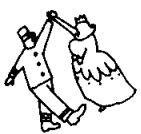


L.V.Beethoven 作曲

M. 1 2 3 4 5

上鍵盤で弾きましょう。

おもちゃのチャチャチャ



越部信義 作曲

M. 1 2 3 4 5

下鍵盤で弾きましょう。

ねこふんじゃった



作曲者不祥

M. 1 2 3 4 5

下鍵盤で弾きましょう。

きらきら星



フランス民謡

M. 1 2 3 4 5

上鍵盤で弾きましょう。

どらえもんめうた

(♪=♪はずんで)

菊地俊輔 作曲



弾きたい音色を選んでみましょう。

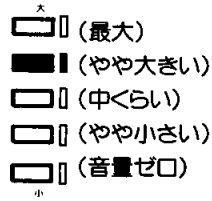
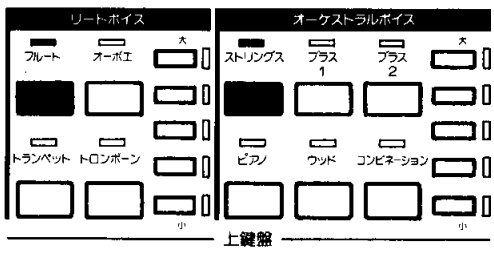
上鍵盤にはオーケストラルボイスとリードボイス、下鍵盤にはオーケストラルボイス、ペダル鍵盤にはベースボイスという音色グループがあります。どんな音色でしょう？さあ、きいてみましょう！。

..... 上鍵盤の音色

リードボイス、オーケストラルボイス(上鍵盤)から音色をひとつずつ選んでスイッチを押します。

それぞれの音色グループのボリュームをセットします。

2つのボリュームのバランスを、音を出しながら決めてゆきます。



さあエクスプレッションペダルを踏み込みながら、上鍵盤を弾いてみましょう。

ビブラート
音をふるわせる効果。

サステイン
音に余韻をあたえる効果。

ベースボイス
ペダル鍵盤の音色。

オーケストラルボイス (下鍵盤)
下鍵盤のオーケストラ音色。

リードボイス
上鍵盤のリード音色。

オーケストラルボイス (上鍵盤)
上鍵盤のオーケストラ音色。

バランス
上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスは、ここで調節。

ADVANCED WAVE MEMORY **AWM**

上鍵盤の
音色です

リードボイス

オーケストラルボイス

ソロ楽器の音色グループです。
同時にふたつ以上の鍵盤を押さ
えても、いちばん高い音だけが
でてくるようになっていきます。

オーケストラで使われる楽器の音色です。
ストリングスは弦楽器の音色、プラスは金
管楽器の音色、コンビネーションはオルガ
ンの音色です。

フルート



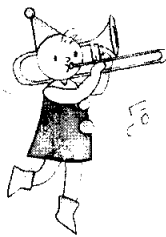
オーボエ



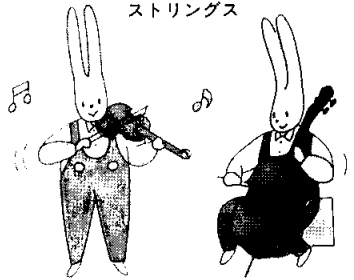
トランペット



トロンボーン



ストリングス



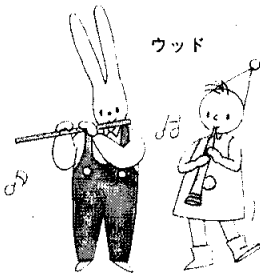
プラス1



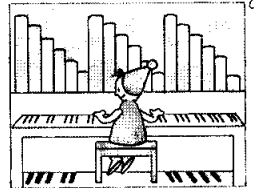
プラス2



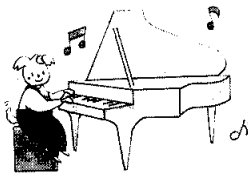
ウッド



コンビネーション



ピアノ

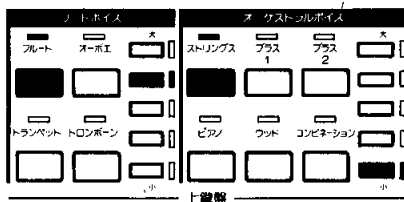


音を出したくない音色グループは、音量を
“ゼロ”(一番下のボタン)にセットします。

たとえば上鍵盤のオーケストラルボイスとリードボイスのどち
らか片方の音を出したくないときには、発音させたくない方の
ボリュームボタンを一番下にセットしてください。

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスは、テン
ポランプとレジストレーションメモリーの間
にある“バランス”で調節します。

バランスボタンを上寄りにセットすると、上鍵盤のボリューム
の方が下鍵盤よりも大きくなります、下寄りにセットすると、
下鍵盤の方が大きくなります。



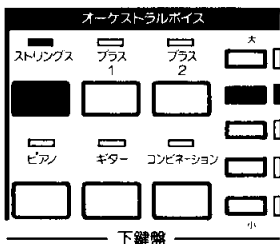
こちらの
音量は
ゼロの
状態。



上鍵盤の音量が下
鍵盤の音量よりも
やや大きい状態。

下鍵盤の音色

オーケストラルボイス(下鍵盤)の音色グループからひとつ選んでボタンを押します。



- ☐ (最大)
- (やや大きい)
- ▢ (中くらい)
- ▣ (やや小さい)
- (音量ゼロ)

音量をセットしましょう。

エクスプレッションペダルを踏みこみながら、下鍵盤を弾いてみましょう。

下鍵盤の音色です

下鍵盤のオーケストラルボイスの音色

ストリングス

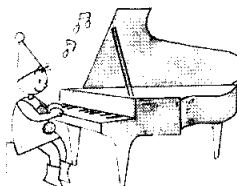
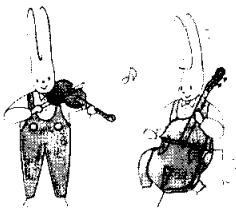
プラス1

プラス2

ピアノ

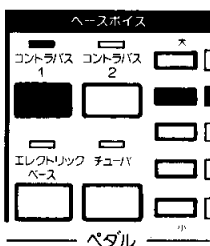
ギター

コンビネーション



ペダル鍵盤の音色

ベースボイスの音色グループからひとつ選んでボタンを押します。



- ☐ (最大)
- (やや大きい)
- ▢ (中くらい)
- ▣ (やや小さい)
- (音量ゼロ)

音量をセットしましょう。

エクスプレッションペダルを踏みこみながら、ペダル鍵盤を弾いてみましょう。

ペダル鍵盤の音色です

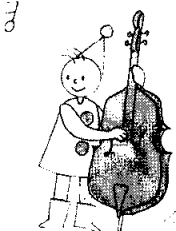
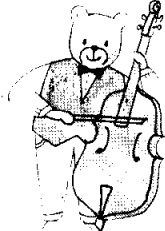
ペダル鍵盤のベースボイスの音色

コントラバス1

コントラバス2

エレクトリックベース

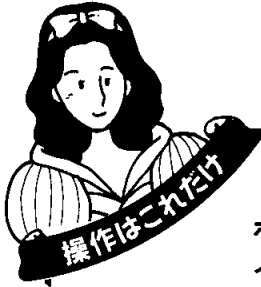
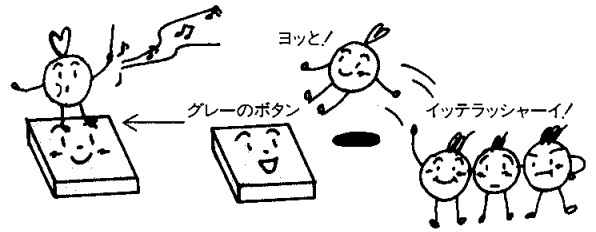
チューバ



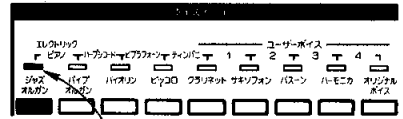


ボイスメニューの音色を呼びだしましょう。

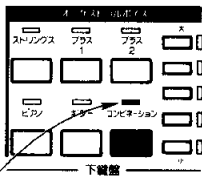
音色グループにあるグレーのボタンに、ボイスメニューの音色を移してみましょう。ボイスメニューのどの音色を、どの音色グループに移してもかまいません。操作は簡単です。さあ、やってみましょう。



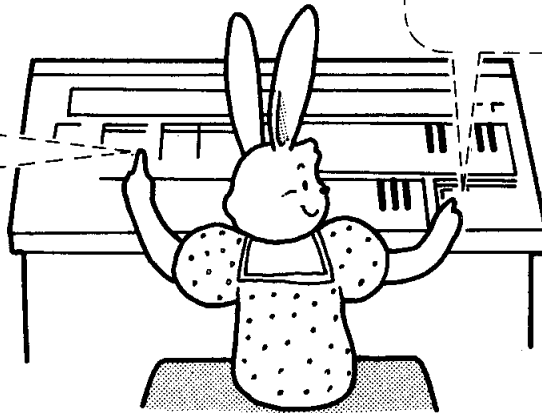
ボイスメニューのボタン①を押しながら、ボイスメニューを移したい音色グループにあるグレーのボタン②を押します。



① ランプが点灯します。



② ランプが点滅し、「ジャズオルガン」の音色がこのグレーのボタンに移ったことを示します。



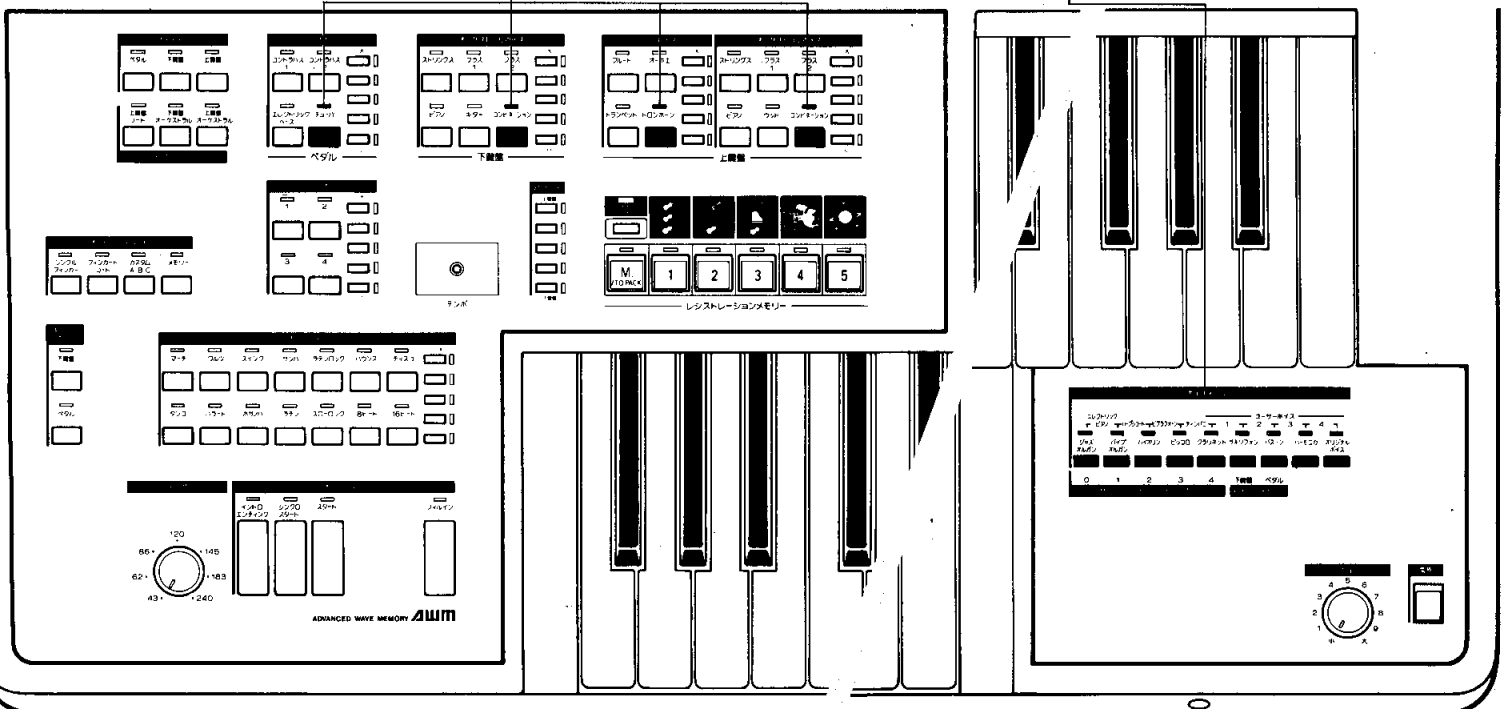
ボイスメニューのどの音色を、どの音色グループに移してもかまいません。

グレーのボタン

ボイスメニューの音色を移せるのは、この4つのボタン。

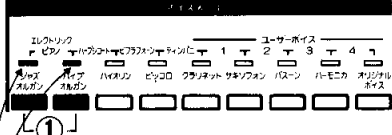
ボイスメニュー

16のプリセット音色があります。

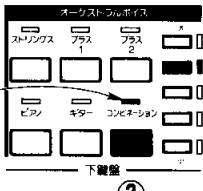


ボ イスメニューの上の段にある音色を移すときは・・・

たとえばエレクトリックピアノの音色を下鍵盤で使いたいときは、エレクトリックピアノの下にある2つのボタン①を（ひとさし指となか指で）同時に押しながら、グレーのボタン②を押します。



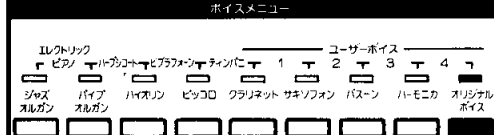
この部分の音色ランプが点灯します。



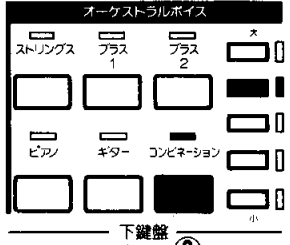
ランプが点滅し、「エレクトリックピアノ」の音色がこのグレーのボタンに移ったことを示します。

グ レーのボタンをもとの音色にもどしたいときは・・・

オリジナルボイスのボタン①を押しながらグレーのボタン②を押せば、移した音色をとり消して、元のパネル表示どおりの音色にもどります。



①



②

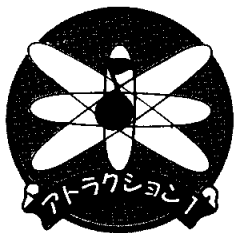
ユ ー ザ ー ボ イ ス に つ い て

ユーザーボイスの1～4のボタンには、あらかじめ下図の音色が入っています。

ユーザーボイスの番号	1	2	3	4
音色	シンセプラス	パンフルート	ジャズギター	エレクトリックベース2

- ユーザーボイスのボタンは、エレクトーンHSシリーズのユーザーボイスをRAMパックによって移すことのできるボタンです。HC-1にない音色も、RAMパックによってユーザーボイスに移して演奏することができます。RAMパックからエレクトーンへユーザーボイスを移す方法は、25ページをご覧ください。
- ユーザーボイス1～4の音色をもとの音色に戻したい場合は、電源をいったん切り、ボイスメニューの一番左にあるジャズオルガンのボタンを押しながら、電源をもう一度入れます。この時、ユーザーボイス以外のレジストレーションメモリーのデータなどもすべてご購入時のデータに変わりますのでご注意ください。



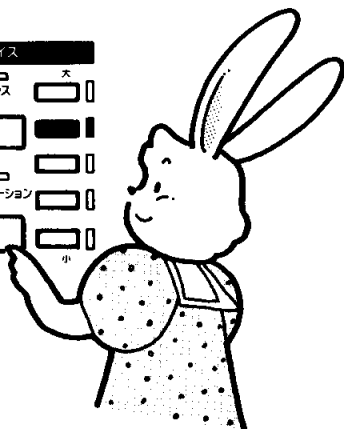
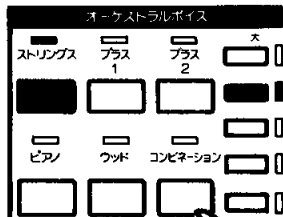


音に余韻をあたえたり、ふるわせてみましょう。

..... 効果*サステイン(音に余韻がかかります)

1

上鍵盤の音色にサステインをかけてみましょう。ここではオーケストラルボイスにサステインをかけてみます。



リードボイスにはサステインがかからないようになっています。

2

サステインの上鍵盤のボタンを押します。

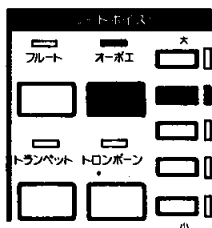


サステインは、同時にどの鍵盤にもかけることができます。

..... 効果*ビブラート(音がふるえます)

1

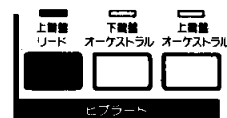
上鍵盤の音色にビブラートをかけてみましょう。ここではリードボイスのオーボエにビブラートをかけてみます。



★上鍵盤のオーケストラルボイスとリードボイス、下鍵盤のオーケストラルボイスの音色には、あらかじめビブラート効果がセットされています。

2

ビブラートの上鍵盤リードのボタンを押します。

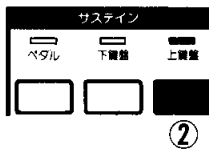
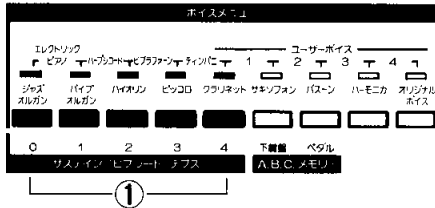


ビブラートは、同時にどの鍵盤にもかけることができます。

★ビブラートのボタンを押すと、お好みのかかりぐあいにかえることができます。

3

サステインの長さをセットします。サステイン／ビブラートデプスの0～4のボタン①を押しながら、サステインの上鍵盤のボタン②を押します。

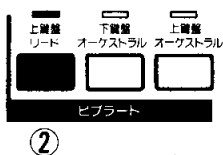
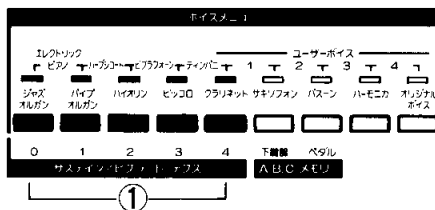


②のランプが点滅し、サステインの長さが①の数字の長さにセットされたことを示します。

★0を選ぶとサステインはほとんどかからなくなり、4を選ぶとサステインの長さは最も長くなります。

3

ビブラートのデプス（深さ）をセットします。サステイン／ビブラートデプスの0～4のボタン①を押しながら、ビブラートの上鍵盤のリードのボタン②を押します。

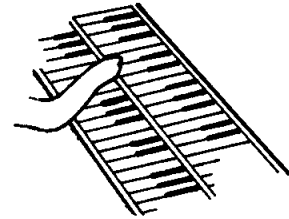


②のランプが点滅し、ビブラートの長さが①の数字の長さにセットされたことを示します。

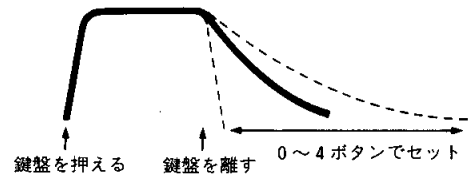
★0を選ぶとビブラートはほとんどかからなくなり、4を選ぶとビブラートのデプス（深さ）は最大になります。

4

上鍵盤を弾いてみましょう。鍵盤から指を離れたあと、セットした長さのサステインがかかります。



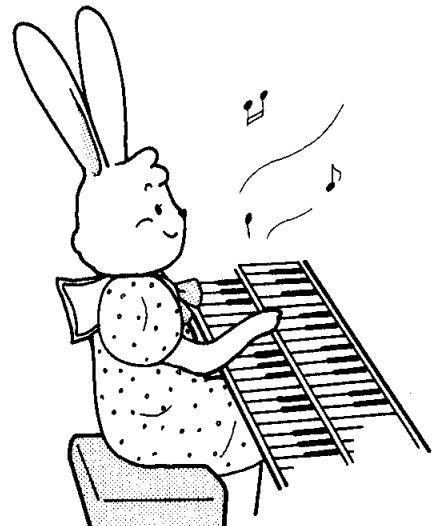
サステイン／ビブラート・デプスでセットした数字が多いほど、鍵盤を離してから消えるまでの時間が長くなります。



★下鍵盤のオーケストラルボイス、ペダル鍵盤にも、同じ方法でサステインをかけることができます。

4

上鍵盤を弾いてみましょう。セットした深さのビブラートがかかります。



上鍵盤のオーケストラルボイス、下鍵盤のオーケストラルボイスにも同じ方法でビブラートをかけることができます。



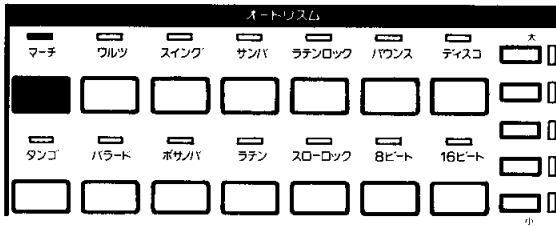
オートリズム☆

オートリズムにあわせて演奏してみましょう。

オートリズムを使うと、自動的にリズムがきざまれます。鍵盤を弾く前にボタンをセットしておいて、すてきな演奏をしてみましょう。

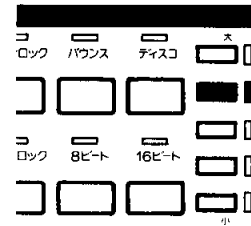
1

オートリズムの中から、リズムパターンをひとつ選んで押します。



2

音量をセットします。



音量は5段階に調節できます。

4

オートリズムにあわせて演奏をはじめましょう。
スタートには4種類の方法があります。

スタート



このボタンを押すと、リズムがすぐにスタートし、もう一度押すと、ストップします。

- ・ボタンを押すと、テンポに合わせてテンポランプが点滅します。

イントロ/ エンディング



リズムをスタートさせる前にこのボタンを押しておき、スタートボタンを押すと、1小節のイントロパターンのあとにリズムがスタートします。

シンクロ スタート



このボタンを押すと、リズムはすぐにスタートせず、下鍵盤かペダル鍵盤を押さえると同時に、スタートします。

- ・ボタンを押すと、テンポに合わせてテンポランプが点滅し、シンクロスタートの待機中になります。

フィルイン スタート



リズムをスタートさせる前にこのフィルインボタンを押しておき、スタートボタンを押すと、1小節のフィルインパターンのあとにリズムがスタートします。

フィルイン

リズムをスタートさせた後でフィルインを押してみましょう。フィルインのパターンがその小節の終わりまで入ります。



オートベースコード☆

指一本でも自動伴奏ができます。

オートベースコードは、下鍵盤でコードを押さえるだけで、和音とベース音の自動伴奏が出てくる、べんりな機能です。コードの押さえ方は、「シングルフィンガー」、「フィンガードコード」の2種類があります。つぎのページの説明を読んだ後で、もういちどコード表を見て指の押さえかたを練習しましょう。

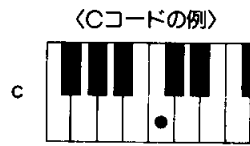
シングルフィンガーの押さえ方

シングルフィンガーは、コードを全部押さえなくても、かんたんに自動伴奏をさせることができる機能です。

- ・シングルフィンガーでは、下鍵盤のどの音域で押さえても、でてくる自動伴奏の音域はかわらないようになっています。

メジャーコード

コードの根音をひとつ押さえる



マイナーコード

コードの根音と、それより左側の黒鍵を同時に押さえる。



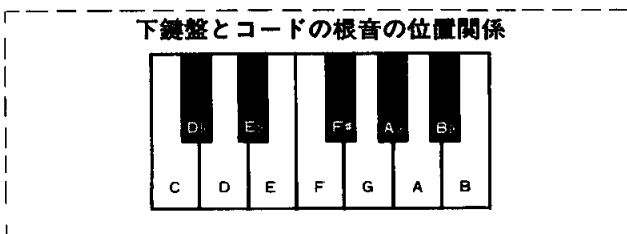
セブンスコード

コードの根音と、それより左側の白鍵を同時に押さえる。



マイナーセブンスコード

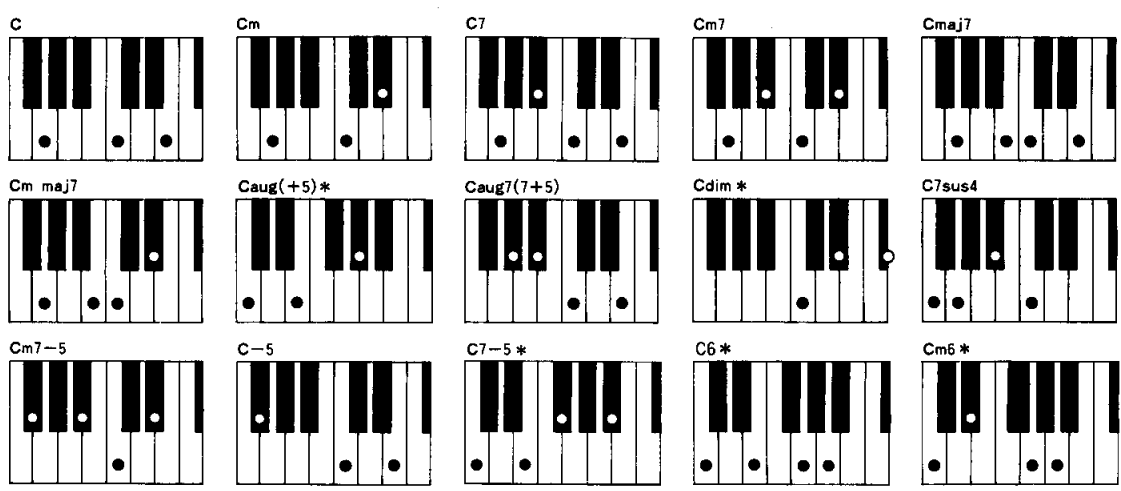
コードの根音と、それより左側の黒鍵と白鍵を同時に押さえる。



フィンガードコードの押さえ方

フィンガードコードは、ふつうにコードを押さえて自動伴奏をさせる機能です。

- ・フィンガードコードまたはカスタムA.B.C.を使っているときは、下の15種類のコードタイプが検出され、そのコードに応じたベース伴奏が自動的に出てきます。(すべてCを根音とするコードネームで表記)



*の付いたコードは、鍵盤図にある基本形のみ使うことができます(転回形は検出しません)。



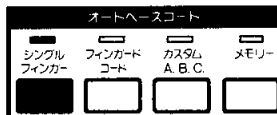
オートベースコード☆

自動伴奏で演奏してみましょう。

オートベースコードには、シングルフィンガー・フィンガード・カスタムA.B.C.(A.B.C.はオートベースコードの頭文字)の3種類があります。ではじっさいに自動伴奏を弾いてみましょう。

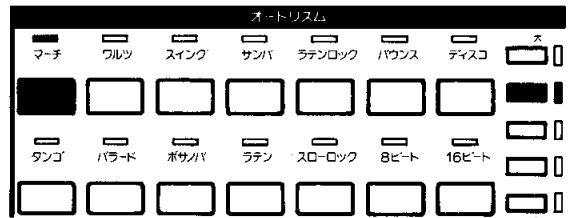
1

下鍵盤とペダル鍵盤の音色を選び、音量をセットします。次に、オートベースコードのボタンから、まず、一番かんたんなシングルフィンガーを選んでスイッチを押します。



2

オートリズムからリズムパターンを選んで、セットします。音量とテンポを決めたら、準備完了です。



★アルペジオコードを使うと、もっと楽しい伴奏がつけられます。(くわしくは18ページをごらんください。)

シングルフィンガー

下鍵盤をひとつ押さえるだけで、コードとベースの自動伴奏が出てきます。

フィンガードコード

和音を押さえる自動伴奏。コード奏法になれている人には便利です。

メモリー

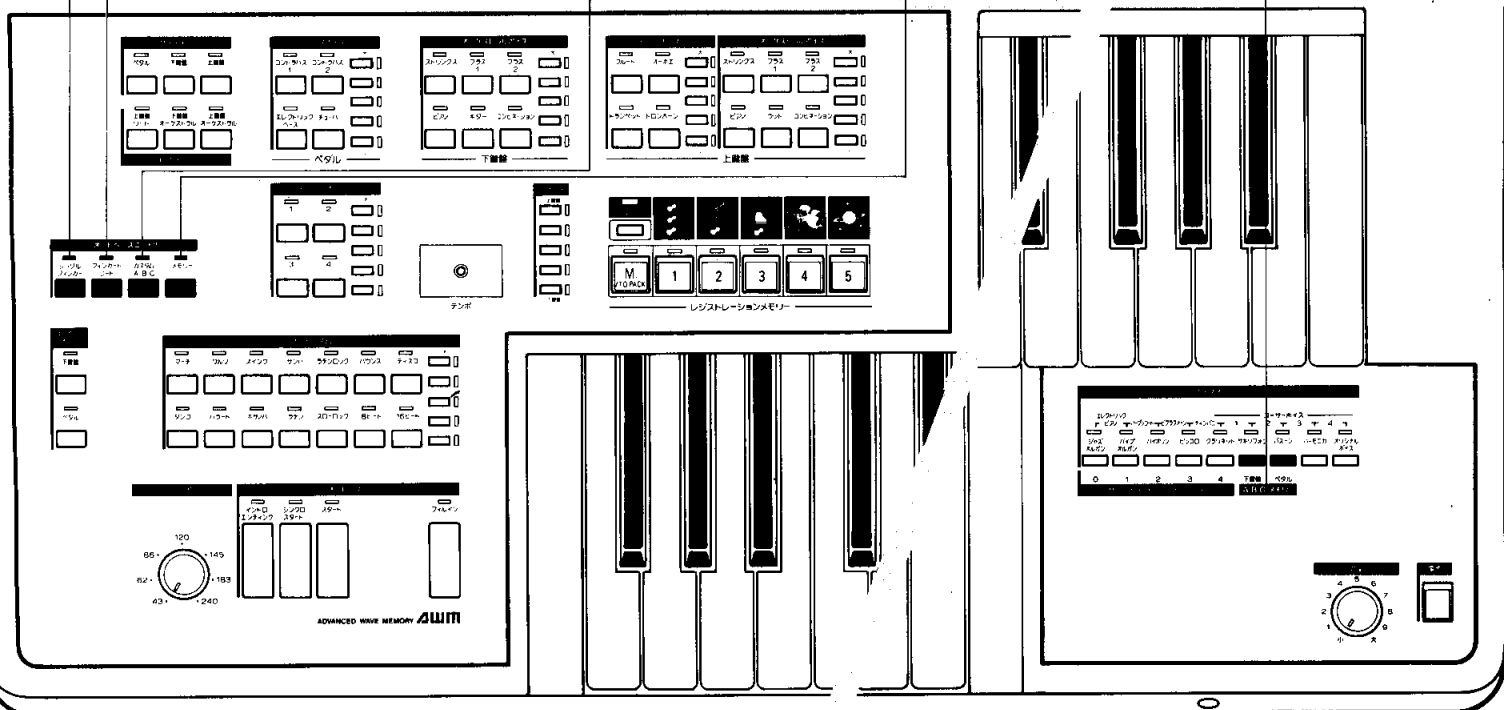
このボタンをオンにすると、下鍵盤を離しても伴奏が鳴り続けます。

カスタムA.B.C.

下鍵盤とペダル鍵盤で別々に自動伴奏が出ます。

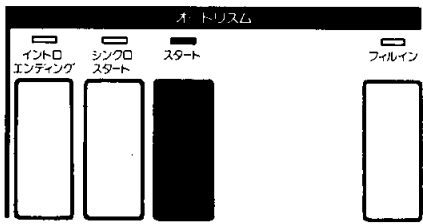
A.B.C.メモリー

このボタンで、メモリーの機能を和音伴奏ベース伴奏のどちらに(または両方に)かけるかをセットします。



3

スタートボタンまたは、シンクロスタートボタンを押して、リズムをスタートさせます。



4

15ページのシングルフィンガーの押さえ方を見ながら、伴奏つきで演奏してみましょう。



・おなじように、フィンガードコードやカスタムA.B.C.を選んで演奏してみましょう。

★カスタムA.B.C.を選んだときは、下鍵盤でコードを押さえ、ペダル鍵盤を1音押さえるだけで、ベース伴奏が自動になります。(ベース伴奏は、下鍵盤で押さえたコードとペダル鍵盤で押さえた音にもとづいて演奏されます)。

メモリーについて

メモリーのボタンをオンにすると、コードを変えるときに、下鍵盤やペダル鍵盤から指をはなしたあとも、コード(和音)伴奏、ベース伴奏がリズムと一緒に鳴りつづけます。

①コード(和音)伴奏とベース伴奏の両方にメモリーをかける場合



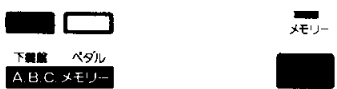
下鍵盤とペダルのボタンを押して……メモリーボタンを押します。

③ベース伴奏だけにメモリーをかける場合



ペダル鍵盤のボタンを押して……メモリーボタンを押します。

②コード(和音)伴奏だけにメモリーをかける場合



下鍵盤のボタンを押して……メモリーボタンを押します。



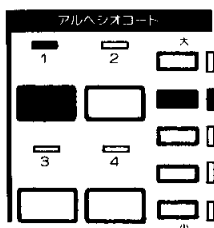
アルペジオコード☆

リズムに合った伴奏パターンを選びましょう。

アルペジオコードをセットしておくで、下鍵盤でコード(和音)を押さえつづけるだけで、伴奏パターン(アルペジオコード)が自動的に出てきます。曲にあったアルペジオコードを選んで演奏してみましょう。

1

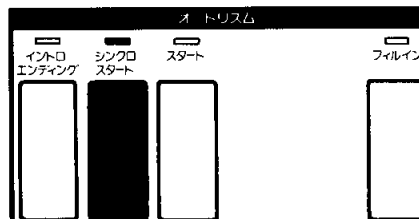
アルペジオコードの伴奏パターンを1～4の中からひとつ選び、音量をセットします。



- [1、2のボタンのパターン]
おもにリズムに連動してきざまれるコード伴奏(リズムック)のパターンです。
- [3、4のボタンのパターン]
おもにリズムに連動した分散和音(アルペジオ)のパターンです。

2

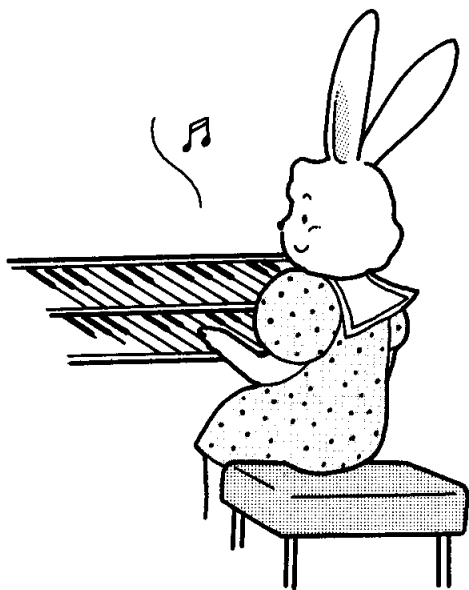
シンクロスタートのスイッチを入れます。



- シンクロスタートを入れる代わりに、スタートスイッチでリズムをスタートさせてもかまいません。

3

下鍵盤で和音を押さえてみましょう。
下鍵盤を押さえ続けるだけで、リズムに連動した伴奏パターンが自動的に出てきます。

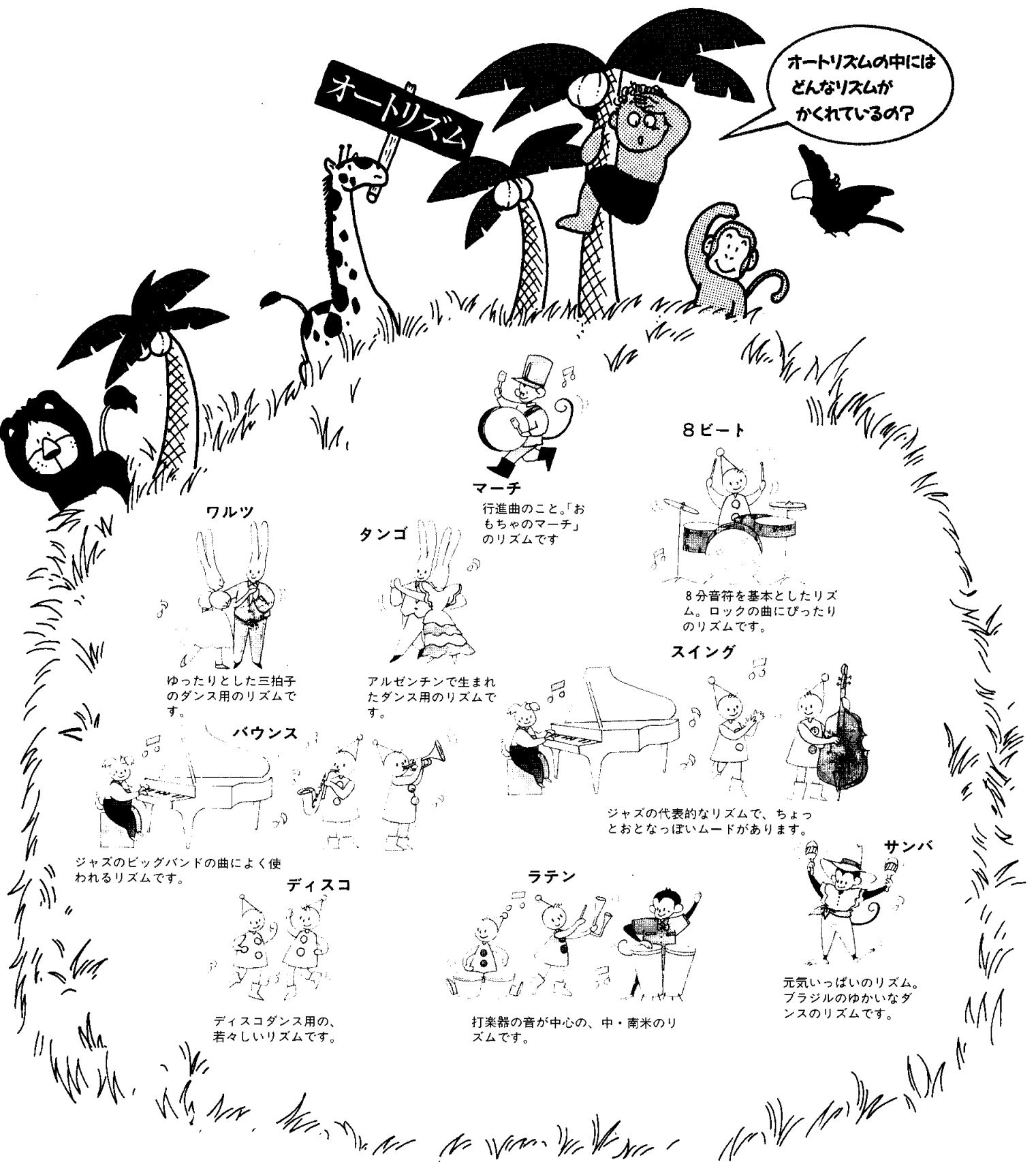


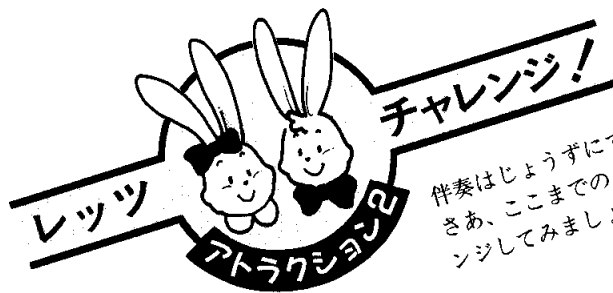
伴奏パターンはこんなにべんり...

自動伴奏のパターンは、和音(コード)とベースでなりたっています。その中の和音(コード)を受けもっているのが、アルペジオコード。

たとえばマーチのリズムを選んだら、アルペジオコードの4つのパターンから、演奏する曲に一番合ったパターンを選びます。

そのうえ、オートベースコードの機能(16ページ)を使うと、コードパターンとベースパターンの両方を、エレクトーンにおまかせして演奏することができるのです。

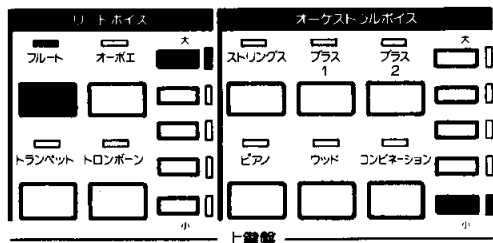




伴奏はじょうずにできるようにまりましたか?
さあ、ここまでのまとめとして、課題曲にチャレ
ンジしてみましょう。

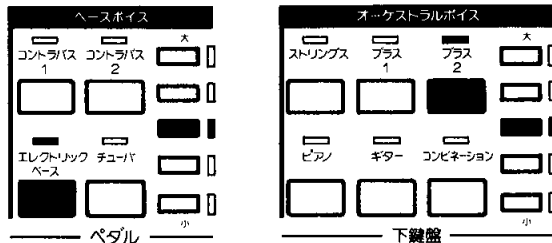
1

上鍵盤の音色、音量を下の図のようにセット
しましょう。



2

下鍵盤、ペダル鍵盤の音色、音量をセットし
ましょう。

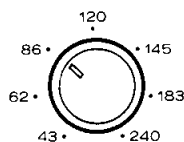
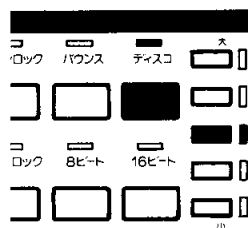


オーケストラルボイスは使わないので、音量を1番小さ
くしておきます。(セットのしかたは5ページにあります。)

(セットのしかたは7ページにあります。)

3

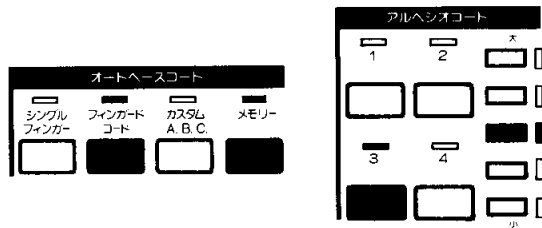
オートリズムをセットします。リズムパター
ンのディスクを押して、音量をセットします。
テンポは86ぐらいにしましょう。



(セットのしかたは12ページにあります。)

4

オートベースコード、アルペジオコードをセ
ットします。



オートベースコードは、シングルフィンガーも使えます。
(セットのしかたは16~18ページにあります。)

こぎつね

1オクターブ上げてひきましょう。

パネルのセットはできましたか？ リズムをスタートさせて、下鍵盤を押さえると、伴奏がはじまります。
伴奏に合わせてメロディーを演奏しましょう。

勝 承夫 作詞
ドイツ 民謡



1. こぎつね コン コン やまの な か
2. こぎつね コン コン やふまゆのの な か
3. こぎつね コン コン あまゆのの な か



やまの な か くされの は み つぶし の て
あゆまの な か おおはき な し の は



おけうし う しぬ た り も み じ の
ぬま に は は な える ずし こ れく び なを



かもんぎうし つげのく し
かよしげうて はかなんがなえしる

演奏を終わらせる時はオートリズムのスタートか、イントロ/エンディングボタンを押し、リズムをストップさせます。

●この曲で使うコード (フィンガードコード)





レジストレーションメモリー★

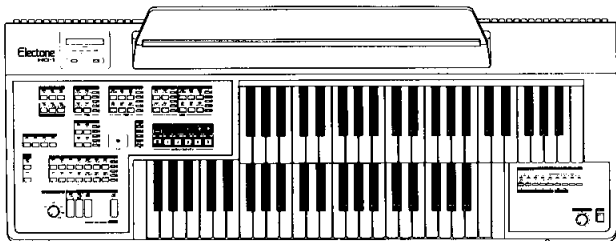
レジストレーションを記憶させてみましょう。

レジストレーションメモリーは、パネルにセットした音色、効果、リズムなどのセット(レジストレーション)を、1~5のボタンに記憶させて、それをワンタッチで再生できるべんりな機能です。

..... **メモリー(記憶)させる操作**

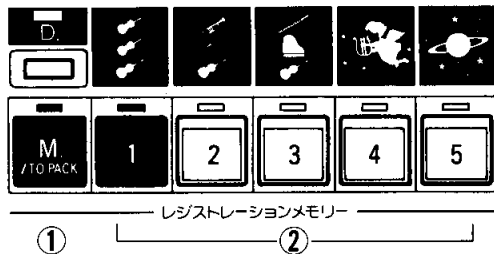
1

記憶させたいレジストレーションをパネルにセットしましょう。



2

赤いメモリーボタン①を押しながら、数字のボタン1~5②のひとつを押しましょう。



- 各鍵盤の音色、音量、効果、リズムパターン、リズムのテンポなど、ほとんどのセットをメモリーできます。

- 押したボタン②のランプが点滅して、レジストレーションがメモリーできたことを知らせます。

★パネルにセットしたレジストレーションは、1~5のボタンにメモリーしなくても、電源をOFFにしたときに、別にメモリーされ、電源をONにした時にふたたびセットされます。

★基本レジストレーションを呼び出すと、1~5のボタンは、すべて基本レジストレーションに入れ替わります。

数字のボタン

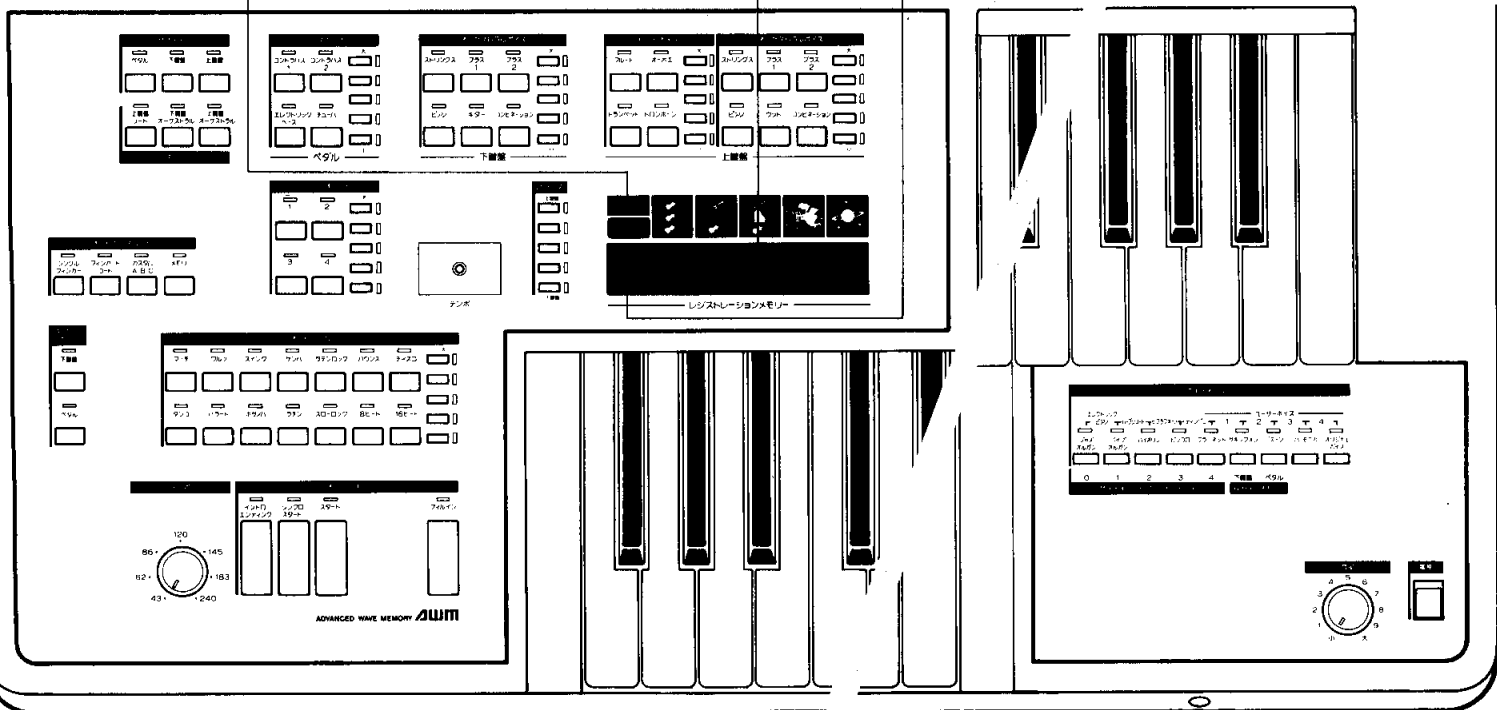
このボタンにレジストレーションを記憶させると、音色やリズムのチェンジがワンタッチでできます。

ディセーブル

リズムなどのレジストレーションだけを固定させておきたいときに使います。

メモリーボタン

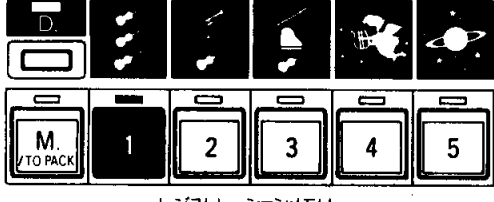
レジストレーションを記憶させるときに使います。



..... **メモリーしたレジストレーションを再生しましょう。**

3

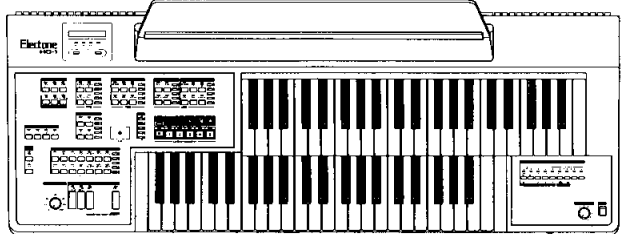
数字のボタン1～5のひとつを押しましょう。



レジストレーションメモリー

4

1～5のそれぞれのボタンにあたらしいレジストレーションをメモリーし、順に再生してみましょう。



押したボタンのランプが点灯して、そのボタンに記憶されているレジストレーションがパネルにセットされます。

★レジストレーションをパネルにセットしたあとも、パネルのレジストレーションを変更することができます。そのときでも数字ボタンに記憶されているメモリーの内容は変わりません。

「ディスプレイってどんな時につかうの？」

1～5の数字ボタンにメモリーしたレジストレーションを呼び出す時、このボタンをオン。すると、オートリズム、オートベースコード、メモリーオンコード、アルペジオコードのセッティングだけは、そのまま。チェンジされません。ですから、音色や効果だけを変更したい時に使うと、とても便利です。

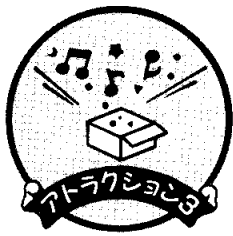


「メモリーできる機能は？」

レジストレーションには、次の機能を記憶させることができます。

- 各音色と音量
- グレーのボタンに移したボイスメニュー
- サステイン/ビブラート
- サステイン/ビブラート デプスでセットしたサステインやビブラートのかかりぐあい
- リズムのパターンと音量
- リズムのテンポ
- アルペジオコードのパターンと音量
- キーボードパーカッション
- オートベースコード
- バランス

★メモリーした内容は、電源を切っても、内蔵の電池によって保存されます(保存期間は最低1週間)。



パック ☆

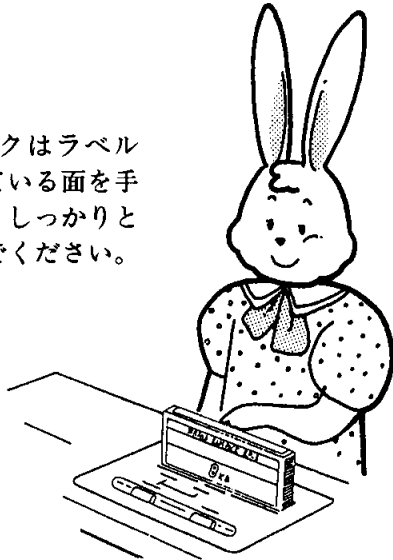
レジストレーションをパックにしまいこみましょう。

エレクトーンのパックとは、データの貯金箱みたいなもの。必要なときにいつでもデータをよびだすことができます。パックにデータをいれることを「トゥーパック」、よびだすことを「フロムパック」といいます。

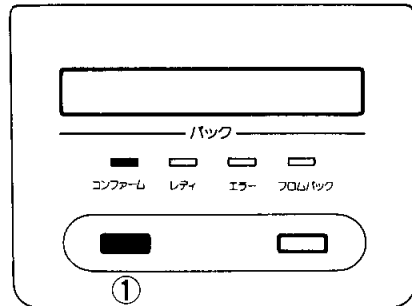
エレクトーンのパックをRAMパックに入れる操作(トゥーパック)

まずレジストレーションメモリーにデータを記憶させましょう。つぎにRAMパック差込み口にRAMパックをさしこみます。

RAMパックはラベルの貼られている面を手前にして、しっかりと差しこんでください。



コンファームのボタン①を押しながら、レジストレーションメモリーのトゥーパック②を押します。

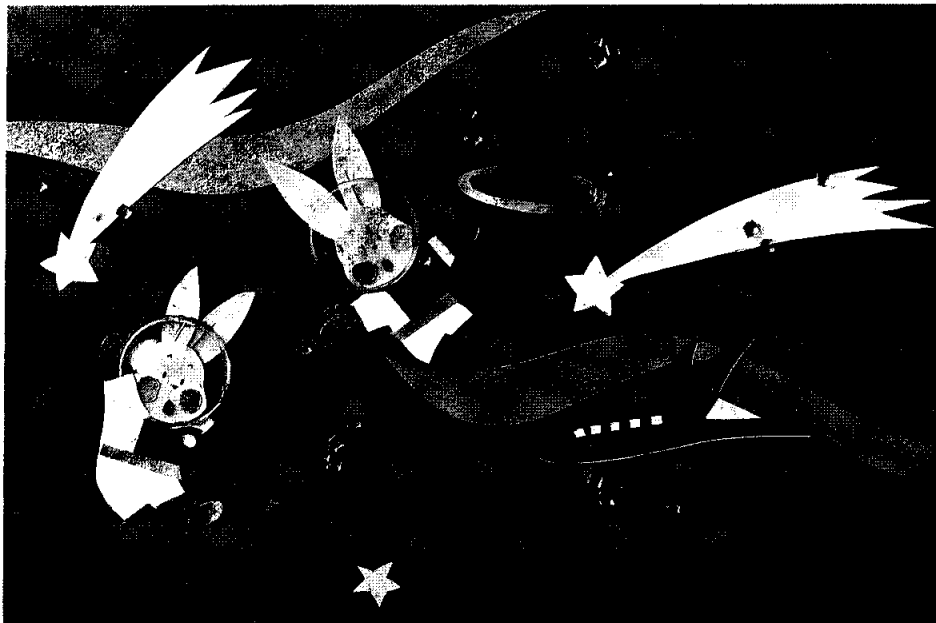


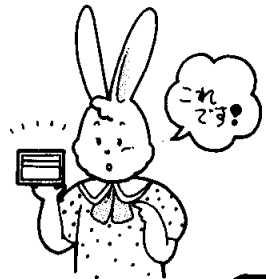
・緑色のレディのランプが点灯して、トゥーパックの用意ができたことを示します。

・トゥーパックのランプが点滅し、その後消灯してパネルのデータがRAMパックに移ったことを示します。
・この操作が終わったあとは、RAMパックを抜き取ってもかまいません。

★RAMパックはRP-3 (8kバイト)がご使用になれます。
また、RP-5 (32kバイト)もご使用になれます。

★トゥーパックの操作をすると、それまでRAMパックに入っていたデータは消え、新しいデータにいれかわります。

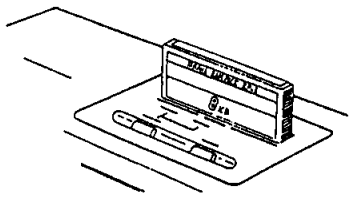




..... RAMパックのデータをよびだす操作(フロムパック)

3

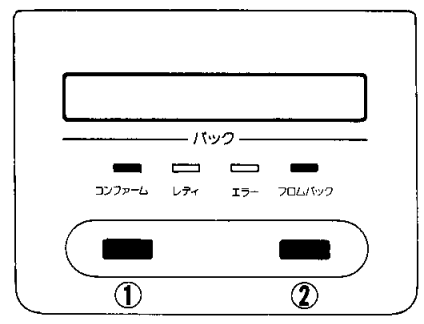
データが記憶されているRAMパックを、差しこみ口にセットします。



緑色のレディランプが点灯し、フロムパックの準備ができたことを示します。

4

コンファーム①のボタンを押しながら、フロムパック②のボタンを押します。

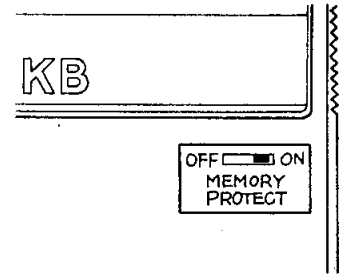


フロムパックのランプが点滅し、その後消灯して、RAMパックのデータがエレクトーンに移ったことを示します。この操作が終わったあとは、RAMパックを抜きとつてもかまいません。

★フロムパックの操作をすると、それまでエレクトーンに記憶されていたデータは消えて、RAMパックのデータにいられます。

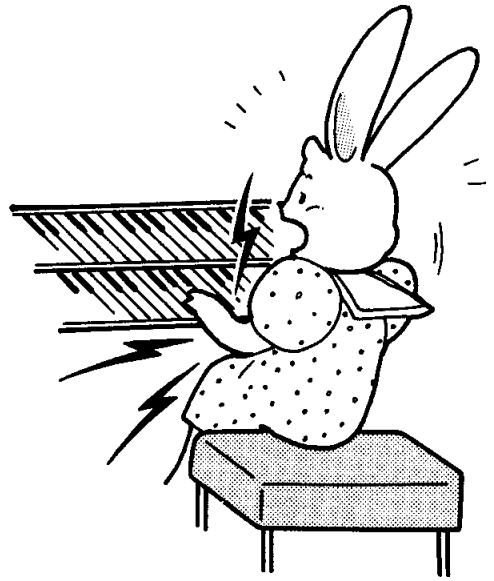
メモリープロテクトってどんな時につかうの？

- ・RAMパックに移したデータを、消したくない場合は、RAMパックについているメモリープロテクトのスイッチをオンにしましょう。
- ・オンにすると、まちがってトウパックの操作を行っても、新しいデータは記憶されません。そのまま、フロムパックの操作もできます。



赤いエラーランプがついた時は？

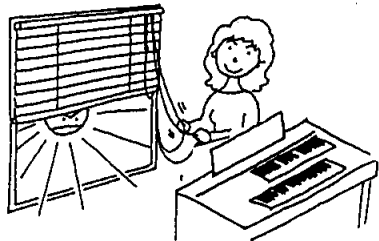
- ・赤いエラー(=まちがい)ランプがついて、アラーム音が3回鳴ったら、操作にこのようなまちがいがなかったか確認をしてみましょう。
- RAMパックの差しこみかたが不完全な場合。
- 未使用のRAMパックを初めて差しこみ口にセットした場合。(コンファームボタンを押せば、トウパックの操作ができるようになります。)
- RAMパックのメモリープロテクトスイッチがオンになっている時に、トウパックの操作を行った場合。



末永く安全にお使いいただくために

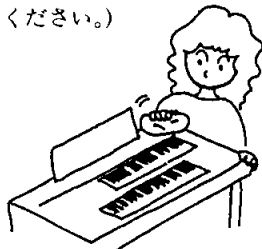
〈設置場所について〉

- 直射日光はさけてください。
- 暖房器具の近くには設置しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所や、湿度の特に低い場所もさけてください。
- 振動の少ない、平らな床面に設置してください。
- 壁から10cm以上離すようにしてください。壁が直接振動するのを防ぎます。



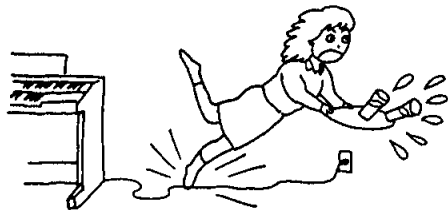
〈外壁・鍵盤のお手入れは〉

- 外壁や鍵盤のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- よごれがひどい場合は、水を少しふくませ、かたく絞った布で拭きとってください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は、鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
- 外壁の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますので、ビニール製のカバーなどはご使用にならないでください。(付属のカバーをお使いください。)



〈電源コードを大切に〉

- エレクトーン本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っ掛けたりしないように注意してください。
- コンセントから抜くときは、電源コードを引っばらないでください。
- 電源コードの継ぎ足しは危険ですからさけてください。



〈無理な力を加えないでください〉

- ボタンやつまみ、スイッチ類に無理な力を加えることはさけてください。
- 椅子・譜面板などの取扱いでは、キズをつけないように注意してください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所へは十分な配慮をしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適切な音量を心がけるとともに、窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

〈エレクトーンの移動時には〉

エレクトーンを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

〈他の機器との接続について〉

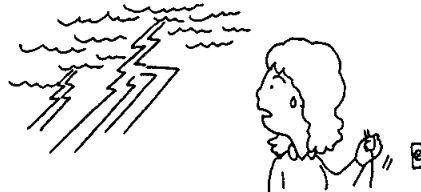
外部アンプ機器等を接続する場合、29ページを参照のうえ、正しく接続してください。また、スピーカー破損防止のため、機器接続の際はそれぞれの電源スイッチを切ってください。

〈他の電気機器への影響について〉

このエレクトーンはデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤動作の原因になることがあります。他の電気機器から充分離してご使用ください。

〈落雷に対する注意〉

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。



〈万一異常があったら〉

使用中に音がでなくなったり、異常なおいや煙がでた場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

〈本書と保証書の保管について〉

本書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

〈RAMパックの取り扱いと保管について〉

RAMパックには、LSIなどの電子部品が使用されていますので、その取り扱いや保管では次の点に注意してください。

- 落としたり、強い力を加えたりしないでください。
- 差し込み口の金属部を堅いものでこすったりして、キズをつけないようにしてください。
- 内部に水やホコリが入らないように注意してください。
- 保管する場所は、過度な湿度や湿気にご注意ください。また、必ず専用のケースに入れて保管してください。
- 持ち運ぶ際は、RAMパックの情報が衣類などの静電気によって消えてしまうことがありますので、必ず専用ケースをお使いください。

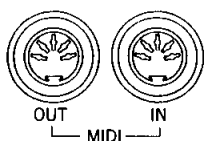
故障かなと思ったら

次のような現象は故障ではありませんのでご注意ください。このような現象でサービスを依頼されますと、保障期間中であっても実費料金を申し受けることがございますので、ご了承ください。

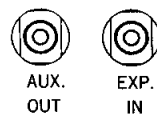
現象	原因と処置
時々ガリッとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、故障したネオンサインや電気ドリルなどを使用している場合は、雑音の入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビなどに雑音の入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあると雑音の入ることがあります。なるべく離してご使用ください。
音が周囲の物を共鳴させてビビる。	エレクトーンの音は持続音が多いため、周囲の戸棚や窓ガラスなどの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のばらつきがある。	一般に電子楽器では、音色を変えるという本質的な要素をもつため、音色による各鍵盤の音量のばらつきをなくすことは非常に困難です。エレクトーンでは、どの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。また、音量や音色は、エレクトーンの設置場所や状態や聞く位置などによって大きく異なることがあります。どうしても気になる場合は、電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上・下鍵盤の高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音と低音の調律は実音ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じのする音がある。	主に管楽器系の音色で感じるがありますが、これは実際の楽器音の特徴を再現するため、特に組み込まれた音色効果です。プラスの振動やプレスノイズなど、よりリアルな特徴をそなえた楽音が得られます。
ペダル鍵盤を同時に2音おさえても1音しかでない。また、リードボイス音色は、同時に2音以上おさえても1音しかでない。	演奏上、設計上の理由から、ペダル鍵盤およびリードボイス音色では、それぞれ同時に1音しか発音しないようになっています。同時に2音以上おさえた場合は、高音が優先されます。
上鍵盤または下鍵盤を同時に8音おさえても7音しかでない。	上鍵盤または下鍵盤では、最大7音まで同時に発音するようになっています。
ボリュームをセットしても、ペダル鍵盤の音色が発音しない。	オートベースコードのシングルフィンガーまたはフィンガードコードがセットされています。パネルのシングルフィンガーまたはフィンガードのボタンをOFFにしてください。
上鍵盤の音量が下鍵盤の音量にくらべて大きすぎる。(またはその逆)	バランスのセットが上鍵盤(または下鍵盤)側に寄りすぎています。通常の演奏では、中央付近にセットしてください。(→6ページ)
表示されている音色とは異なる音色が発音する。	点灯しているグレーのボタンに、ボイスメニューの音色が移されています。ボイスメニューの一番右にあるオリジナルボイスのボタンを押しながら、グレーのボタンを押し、ボイスメニューの音色を解除してください。(→9ページ)
ボイスメニューのユーザーボイスの音色をグレーのボタンに移して発音させたら、出したい音色とちがう音色が出た。	ユーザーボイス1～4にはあらかじめ音色がセットされていますが、バック機能を使ってHSシリーズのデータに移したときは、バックにメモリーされているユーザー音色に入れ替わります。あらかじめセットされていた音色に戻したい場合は、電源のスイッチをいったん切り、ボイスメニューの一番左にあるジャズオルガンのボタンを押しながら、電源のスイッチをもう一度ONにしてください。(→9ページ)

現象	原因と処置
基本レジストレーションをレジストレーションメモリーに呼び出すことができない。	電源スイッチを入れたあと、すぐにメモリーボタンをはなしているためです。メモリーボタンをおさえながら電源を入れ、そのあと約1～2秒はメモリーボタンをおしつづけてください。
パネルのサステインまたはビブラートをONにしても効果がかからない。	パネルの右側にあるサステイン/ビブラートデプスが0になっていると、効果がかりません。1～4にセットしてください。(→11ページ)
ボリュームをセットしても、アルペジオコードの音が発音しない。	リズムがスタートしていません。アルペジオコードはリズムと一緒に使用してください。(→18ページ)
下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえるとリズム楽器の音が一緒に発音する。	キーボードパーカッションのボタンがONになっています。キーボードパーカッションを使用しないときは、OFFにしてください。(→14ページ)
シングルフィンガーで下鍵盤の高い方を押さえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーでは定められた1オクターブの中の音が出るようになっていません。同じ音色であれば、下鍵盤のどの位置を押さえても同じ音程で和音が出てきます。(→15ページ)
レジストレーションメモリーに記憶できない機能がある。	オートリズムのスタート、シンクロスタート、フィルイン、イントロ/エンディングの各スイッチの機能は記憶しないようになっています。
新品のRAMパックを差しこむとエラーのランプが点滅する。	未使用のRAMパックをエレクトーンに差しこんだ場合はエラーのランプが数回点滅します。そのまま、コンファームのボタンをおしてトゥーパックの操作を行ってください。(→24ページ)
トゥーパックの操作をすると、エラーのランプが点滅する。	パックの差し込み方、操作方法を再度確認してやり直してください。また、RAMパックのメモリープロテクトのスイッチがONになっていると、トゥーパックの操作をしても情報は移りません。
コントロールパネルなどが正常に働かない。または、メモリーしていた情報が変わってしまう。	非常にまれなことです。落雷などにより異常電圧が流れ、エレクトーンが正常に機能しなくなったり、メモリーしていた情報が変わったりすることがあります。このような場合は、いったん電源スイッチを切り、ボイスメニューの一番左にあるジャズオルガンのボタンを押しながら、電源のスイッチをもう一度ONにしてください。

付属端子



(背面左)



(背面右)

●MIDI IN/OUT(ミディ端子)

MIDI(ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス)は、デジタル電子楽器の世界統一規格。エレクトーンの演奏を記録・再生するMDR(ミュージックディスクレコーダー)の接続などに使用します。



HEADPHONES

(前面右)

●HEADPHONES(ヘッドホン端子)

ヘッドホンを接続する端子で、ステレオ、モノラルどちらのタイプでも、ご使用になれます。ヘッドホンを使えば、エレクトーン本体のスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。[出カインピーダンス60Ω]

●AUX.OUT(ライン出力端子)

外部アンプ機器などと接続して、より迫力のあるサウンドをだしたい時に使う端子です。また、テープデッキの[LIN-IN]端子と接続すれば、エレクトーンの音を録音することができます。(注)ご使用になるテープデッキにより録音レベルが合わないこともございますので、ご注意ください。

●EXP.IN(エクスプレッション連動入力端子)

シンセサイザーやリズムマシンの出力端子と接続し、それらの音をエレクトーンのス피ーカーからだしたい時に使う端子です。接続した機器の音量は、エレクトーンのエクスプレッションペダルでコントロールすることができます。

MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション	送	受	備考
ベーシック 電源ON時 チャンネル 設定可能	1、2、3、16CH 4、5 CH	1、2、3、15、16CH 4 CH	***
電源ON時 モード メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノート ナンバー：音域	36-96* *****	36-96 36-96	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	9 nH、v=1-127 9 nH、v=0	9 nH、v=1-127 9 nH、v=0、8 nH	
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー	×	×	
コントロール チェンジ	1 × 4 × 11 ○ 64 ○	× × ○ (外部モード時のみ) ○	モジュレーションホイール セカンドエクスプレッションペダル エクスプレッションペダル サスティーン
プログラム チェンジ：設定可能範囲	0-4、 *****	0-4	レジストレーションメモリー
エクスクルーシブ	○	○	
：ソング・ポジション コモン：ソング・セレクト ：チューン	× × ×	× × ×	
リアル：クロック タイム：コマンド	○ ○	○ ○	** (FAH、FCH)
そ：ローカルON/OFF の：オール・ノート・オフ 他：アクティブ・センシング ：リセット	× × ○ ×	× ○ ○ ○	
備考	* 1 CH：53-96、2 CH：41-84、3 CH：36-48 ** 受信は外部同期モード時のみ *** 1 CH：上鍵盤、2 CH：下鍵盤、3 CH：ペダル鍵盤 4 CH：リードボイス、15CH：キーボードパーカッション 16CH：コントロール		

モード1：オムニ・オン、ポリ
モード3：オムニ・オフ、ポリ

モード2：オムニ・オン、モノ
モード4：オムニ・オフ、モノ

○：あり
×：なし

仕様と音域表

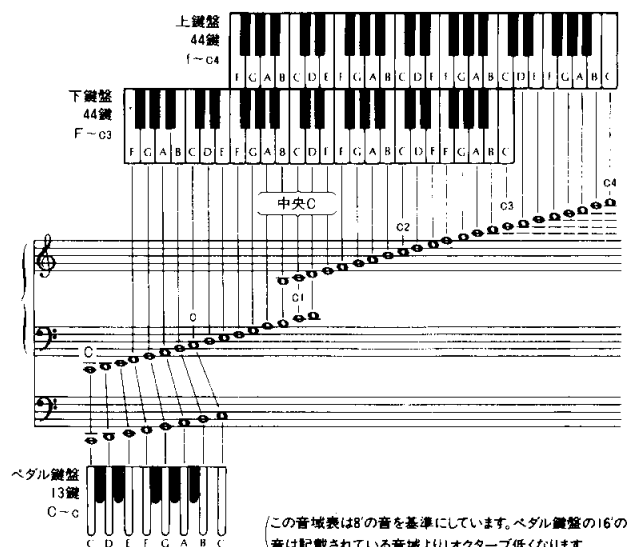
仕様

鍵盤	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤	44鍵 f-c4(3 $\frac{3}{4}$ オクターブ) 44鍵 F-c3(3 $\frac{3}{4}$ オクターブ) 13鍵 C-c (1オクターブ)
音色	上鍵盤オーケストラ トラルボイス 下鍵盤オーケストラ トラルボイス リードボイス ベースボイス ボイスメニュー	ストリングス、プラス1、プラス2、ピアノ、ウッド、コンビネーション、音量 ストリングス、プラス1、プラス2、ピアノ、ギター、コンビネーション、音量 フルート、オーボエ、トランペット、トロンボーン、音量 コントラバス1、コントラバス2、エレクトリックベース、チューバ、音量 ジャズオルガン、パイプオルガン、バイオリン、ピッコロ、クラリネット、サクソフォン、バスーン、ハーモニカ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、ピブラフォン、ティンパニー、ユーザーボイス1・2・3・4、オリジナルボイス
効果・コントロール	サステイン ビブラート	上鍵盤、下鍵盤、ペダル 上鍵盤オーケストラ、下鍵盤オーケストラ、上鍵盤リード サステイン/ビブラート デプス (0~4)
オートリズム	リズムパターン コントロール	マーチ、ワルツ、スイング、サンバ、ラテンロック、バウンス、ディスコ、タンゴ、バラード、ボサノバ、ラテン、スローロック、8ビート、16ビート 音量、テンポ、テンポランプ、スタート、シンクロスタート、フィルイン、イントロ/エンディング
キーボードパーカッション		下鍵盤、ペダル鍵盤
アルペジオコード		1・2・3・4、音量
オートベースコード		シングルフィンガー、フィンガードコード、カスタムA.B.C.メモリー、A.B.C.メモリー
バランス		
レジストレーションメモリー		1・2・3・4・5、メモリー、ディセーブル、基本レジストレーション：1・2・3・4・5

バック	コンファーム、フロムバック、トゥーバック、レディー、エラー												
メインコントロール	音量、エクスプレッションペダル、電源												
付属端子	ヘッドホン、オックス・アウト、エクスプレッションイン、MIDIイン・アウト												
アンプ	30W												
スピーカー	18cm×1、5cm×1												
定格電圧・定格消費電力・定格周波数	100V・30W・50/60Hz												
寸法・重量	<table border="1"> <tr> <td>本体</td> <td>寸法</td> <td>間口：106.2cm、奥行：41.8cm、高さ：77.6cm (譜面板をつけた時：92.9cm)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>重量</td> <td>34.0kg</td> </tr> <tr> <td>椅子</td> <td>寸法</td> <td>間口：44.6cm、奥行：29.6cm、高さ：50.5cm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>重量</td> <td>5.0kg</td> </tr> </table>	本体	寸法	間口：106.2cm、奥行：41.8cm、高さ：77.6cm (譜面板をつけた時：92.9cm)		重量	34.0kg	椅子	寸法	間口：44.6cm、奥行：29.6cm、高さ：50.5cm		重量	5.0kg
本体	寸法	間口：106.2cm、奥行：41.8cm、高さ：77.6cm (譜面板をつけた時：92.9cm)											
	重量	34.0kg											
椅子	寸法	間口：44.6cm、奥行：29.6cm、高さ：50.5cm											
	重量	5.0kg											
付属品	譜面板、カバー												

音域表

- この音域表は8'の音を基準にしています。
- ペダル鍵盤の実音は、記譜より1オクターブ低い音になります。



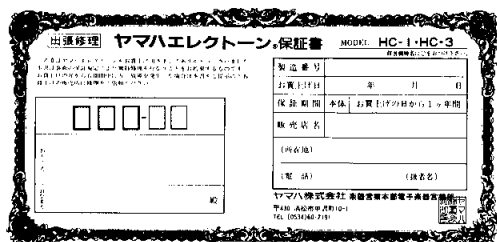
アフターサービスと保証

保証

エレクトーン®の保証は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満1か年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項を記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。



保証書は大切にしましょう!

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1か年間の無償サービスをお約束申しあげるので、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別、サービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。
2. 保証書は、サービスにお伺いしたときに今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社電音サービスセンター、サービスステーションに送られ、記録した後、直接お客さまにご返送申あげます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申あげます。
3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社電音サービスセンター、サービスステーションにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申あげますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1か年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介します。

サービスのご依頼

- ご依頼の前に。
 1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。
 2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。
(28～29ページの「故障かなと思ったら」を参照)
- エレクトーンの様子は詳しくお知らせください。
 1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えば、あらかじめ用意する部品などの見当が付き、スムーズにいきます。
 2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜だけ音が小さい ●ある時間だけ雑音が出る ●エレクトーンの音をださなくても、スイッチを入れるだけで雑音が出るなどの場合です。
 3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

- これだけはお知らせください。
ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。症状……なるべく具体的に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービスをご依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも下記の電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

全国のヤマハ特約店と下記電音サービスセンター、サービスステーションが責任をもってアフターサービスを行っております。

YAMAHA電気音響製品サービス拠点(修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道サービスセンター	TEL.011-513-5036	〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
仙台サービスセンター	TEL.022-236-0249	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
新潟サービスセンター	TEL.025-243-4321	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F
松本サービスステーション	TEL.0263-32-5930	〒390 松本市大手2-5-2 中村屋ビル3F
東京サービスセンター	TEL.03-255-2241	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル
首都圏サービスセンター	TEL.044-434-3100	〒211 川崎市中原区木月1184
浜松サービスセンター	TEL.0534-65-1158	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(榊宮竹工場内)
名古屋サービスセンター	TEL.052-652-2230	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
京都サービスセンター	TEL.075-361-6470	〒600 京都市下京区七条通間之町東入材木町483 第2マスイビル3F
大阪サービスセンター	TEL.06-877-5262	〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(榊千里丘センター内)
神戸サービスセンター	TEL.078-321-1195	〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ(榊神戸店内)
四国サービスセンター	TEL.0878-22-3045	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(榊高松店內)
広島サービスセンター	TEL.082-874-3787	〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39
九州サービスセンター	TEL.092-472-2134	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
[本社]電音サービス部	TEL.0534-65-1158	〒435 浜松市上西町911

*住所および電話番号は変更になる場合があります。

電子楽器営業部エレクトーン営業課 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL.0534-60-2191

北海道支店エレクトーン・クラビノーバ推進課 〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター
TEL.011-512-6114

仙台支店エレクトーン・クラビノーバ推進課 〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通ビル
TEL.022-222-6141

東京支店エレクトーン・クラビノーバ推進課 〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
TEL.03-572-3140

名古屋支店エレクトーン・クラビノーバ推進課 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL.052-201-5140

大阪支店エレクトーン・クラビノーバ推進課 〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
TEL.06-252-7541

広島支店エレクトーン・クラビノーバ推進課 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL.082-244-3748

九州支店エレクトーン・クラビノーバ推進課 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.092-472-2152

エレクトーン®は当社の登録商標です。

YAMAHA

YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社

YAMAHA feelin' club



T4960693042724